

センター活用事例

開発したパソコン教育システムは
全国で数百校の導入実績を誇る。



あきた企業応援ファンド事業

震災被災地の窮状を見聞きして 非常時に役立つ電源装置を開発

本業は学校に納入するパソコン教育システムの製造販売だが、被災地支援で駆けつけて惨状を目の当たりにし、災害等の非常時に役立つ電源装置の開発を思い立つ。あきた企業応援ファンド事業によって製品化を果たす。

全国でパソコン教育システムを納入

湯沢市にある株式会社フォラックス教育の田中格社長は、同社設立前から教材販売会社を経営していた。丁度国内の学校でパソコン教育に力を入れ始めた頃、岩手県で学校用パソコン教育システムを開発したベンチャー企業があり、田中社長はその販売部門を担うことになり平成7年に現在の会社を設立した。

大手メーカーの三分の一という低価格で差別化を図り、各地のパソコン販売会社を介してこれまでに全国で数百校の導入実績を持つ。

非常用電源装置の開発を着想

その会社が今回、あきた企業応援ファンド事業を活用して、「高信頼性蓄電装置」という製品の開発に取り組んだ。

同社では宮城県東松島市の全市立校にパソコン教育システムを納入していた縁もあって、震災直後に社長自ら、バッテリーから100V電源を出力するインバーターを持参して現地に駆けつけた。停電が続く現地では電源の確保に苦労していたからである。電源装置にはエンジン式の発電機もあるが、騒音や排気ガスのために室内では使えないし、そもそも非常時には燃

料の確保が困難になる。

現地での体験から田中社長は、平時には100V電源やソーラー発電でバッテリーに電気を蓄え、停電した時に自動的にバッテリーから電気を供給できる蓄電装置が手頃な価格で普及できれば良いのではないかと考えるようになった。役所や一般事業所、医療機関等で使うレーザープリンターなどは瞬間的にかなりの電力を消費するため、それにも対応し得る高信頼性を兼ね備えることが出来たら、非常時の混乱は最少限に抑えられる。

製品化に見通しを得て年内に生産開始を予定

このファンド事業は試作品の開発や展示会への出展に活用した。昨年東京で催された国際二次電池展に出展した際には多くの来場者の関心を集めることができ、製品化への自信にもつながった。

開発期間を終え、本生産への道筋が見えてきたので、一年以内には市場に出回る見込みになっている。これからは、クリーンで静かな同社製の蓄電装置の普及が期待される。

株式会社フォラックス教育

〒012-0015

秋田県湯沢市倉内字才の神41-8

Tel. 0183-73-8255

Fax. 0183-73-9655

<http://www.voraxed.co.jp/>



1 今回開発した高信頼性蓄電装置の筐体。年内には本生産を開始する予定とか。

2 秋田で教材販売会社を営んでいた田中格社長は、岩手のベンチャー企業が開発したシステムの販売を担うことになって現在の会社を立ち上げた。

3 同社が開発する機器は製造を台湾のメーカーに委託し、自社でセットアップして納品する。

4 今回開発した高信頼性蓄電装置はあきた企業応援ファンド事業の助成金を利用して展示会に出展し、来場者の関心を集めた。

あきた企業応援ファンド事業

地域資源を活用した県内企業の新商品・新役務の開発、販路拡大等の経営革新の取組を支援します。

【制度の利用・お問い合わせについて】

あきた企業活性化センター／経営革新・設備資金担当まで。

事業の解説